

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	建設仮勘定	5,000,000	普通預金	5,000,000
	建物	19,000,000	建設仮勘定	20,000,000
	修繕費	1,000,000		
2	長期前払費用	1,800,000	当座預金	1,800,000
	広告宣伝費	75,000	長期前払費用	75,000
3	定期預金	10,020,000	定期預金	10,000,000
	仮払法人税等	5,000	受取利息	25,000
4	修繕引当金	8,000,000	当座預金	9,000,000
	修繕費	1,000,000		
5	土地	500,000	未払金	1,600,000
	租税公課	1,100,000		

・解説

1. 固定資産の取得・修繕に関する問題です。

今までに出題されたことのない形で、しかも問題文の指示があいまいなので、非常に解きにくかったと思います。

本問はまず、問題文の「既存の営業所の増築工事について、4回に分けて各 ¥ 5,000,000 を分割支払いする建設工事契約を締結し、それぞれ建設仮勘定に計上している。これが完成して最終回の支払いを普通預金から行い」という一文から、既に3回分の分割払いが終わっていることが分かります。

☆参考・分割払い1回目の仕訳

(借) 建設仮勘定 5,000,000 / (貸) 普通預金など 5,000,000

☆参考・分割払い2回目の仕訳

(借) 建設仮勘定 5,000,000 / (貸) 普通預金など 5,000,000

☆参考・分割払い3回目の仕訳

(借) 建設仮勘定 5,000,000 / (貸) 普通預金など 5,000,000

上記の3本の仕訳を踏まえたうえで、最終回の支払いに関する仕訳を切ります。

★解答①・分割払い4回目の仕訳

(借) 建設仮勘定 5,000,000 / (貸) 普通預金 5,000,000

次に、問題文の「建設工事代金の総額 ¥ 20,000,000 を、建物と既存の営業所の修繕費 ¥ 1,000,000 に振り替えた」という指示に従って、建設仮勘定を適正な勘定科目に振り替えます。

★解答②・建設仮勘定を適正な勘定科目に振り替える仕訳

(借) 建物 19,000,000 / (貸) 建設仮勘定 20,000,000

(借) 修繕費 1,000,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

■模範解答について

模範解答を出している学校・会社の中には、最終回の支払いについては建設仮勘定を経由しない仕訳を解答としているところもあります。

- ・最終回の支払いを「いったん建設仮勘定に計上」する…TAC、大原、NS、大栄、東京 CPA
- ・最終回の支払いを「建設仮勘定を経由しないで処理」する…LEC、メイプル、弥生カレッジ

建設仮勘定は、対象となる有形固定資産の工事が完了し、事業の用に供した時に適切な勘定に振り替えます。よって、本問の場合は「最終回の支払い」と「工事が完了して事業の用に供したタイミング」が同時であれば、建設仮勘定を経由しないで処理する仕訳も正解になりそうです。

ただ、本問は「最終回の支払い」と「工事が完了して事業の用に供したタイミング」が同時とは書かれていないので、最終回の支払いのタイミングで一度、建設仮勘定を計上し、工事が完了して事業の用に供したタイミングで建設仮勘定の全額を適切な勘定に振り替えた、と考えるほうが自然だと思います。

日商簿記検定は模範解答が公表されないので、建設仮勘定を経由しない仕訳も正解になるのかどうかは分かりませんが、参考までに別解としてご紹介しておきます。

☆参考・最終回の支払いを「建設仮勘定を経由しないで処理」する仕訳（別解）

(借) 建物 19,000,000 / (貸) 普通預金 5,000,000
(借) 修繕費 1,000,000 / (貸) 建設仮勘定 15,000,000

固定資産の取得に関する問題は、第101回の間3や第118回の間5、第120回の間5、第125回の間4、第128回の間1、第131回の間3、第139回の間5、第141回の間2、第145回の間1、第147回の間1、第150回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

固定資産の修繕に関する問題は、第100回の間1や第102回の間4、第110回の間1、第111回の間5、第115回の間3、第119回の間2、第123回の間5、第124回の間1、第132回の間1、第137回の間3、第139回の間4、第141回の間2、第147回の間1、第149回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 一年基準に関する問題です。

問1と同様、今までに出題されたことのない形で、非常に解きにくかったと思いますが、本問は【支払時に資産計上する仕訳】と【計上した資産の一部を費用に振り替える仕訳】の2つに分けて、解答仕訳を考えましょう。

それでは、まず【支払時に資産計上する仕訳】から考えますが、こちらは問題文の「今後2年分の広告費 ¥ 1,800,000を当座預金から支払ってその総額をいったん資産に計上」という一文から、費用処理するのではなく資産の勘定科目を使って仕訳をすると判断します。

広告費の前払いなので前払費用勘定でオッケー…とサクッといきたいところですが、問題に列挙されている勘定科目に前払費用勘定がないので、代わりに長期前払費用という（固定）資産の勘定科目を使って仕訳をします。

★解答①・支払時に資産計上する仕訳

(借) 長期前払費用 1,800,000 / (貸) 当座預金 1,800,000

次に【計上した資産の一部を費用に振り替える仕訳】を考えますが、こちらは問題文の「さらに計上した資産から当月分(1か月分)の費用の計上を行った」という一文から、1か月分の広告費を月割計算して費用に振り替えると判断します。

$$1,800,000 \text{ 円} \div 24 \text{ か月 (2年)} = 75,000 \text{ 円/月}$$

★解答②・計上した資産の一部を費用に振り替える仕訳

(借) 広告宣伝費 75,000 / (貸) 長期前払費用 75,000

最後に、①②の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

本問は初見ではかなり難しい問題で、正答率もかなり低い(1割~2割ぐらい?)と思いますので、間違えても気にする必要はありません。きちんと復習しておけばオッケーです。

一年基準に関する問題は第109回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 源泉所得税に関する問題です。

見慣れない形の問題だったので問題文の読み取りが難しかったかもしれませんが、問題を要約すると預け入れていた定期預金が満期になったので、利息の金額を上乗せして定期預金を継続したということです。

預け入れていた定期預金の金額は10,000,000円、利息の金額は25,000円(=10,000,000円×0.5%×6か月/12か月)なので、ひとまず問題文の「仮払法人税等に計上する源泉所得税(20%)控除後の」の一文を無視して考えると、仕訳は以下のような形になります。

☆参考・定期預金の満期到来→利息を上乗せして継続するさいの仕訳

(借) 定期預金 ? / (貸) 定期預金 10,000,000
(貸) 受取利息 25,000

仕訳のイメージとしては…第126回の間1や第136回の間4で出題された手形の更改が近いと思います。手形の更改の仕訳も旧手形と新手形の両方を計上しますよね。

なお、借方の定期預金の金額(=新たな定期預金の金額)はこの時点では確定しないので、とりあえず「？」にしておきます。

次に、先ほど飛ばした「仮払法人税等に計上する源泉所得税(20%)控除後の受取利息手取額」を考えてみましょう。

「仮払法人税等に計上する源泉所得税」というのは、銀行が当社に利息を支払うさいに、源泉徴収する(=手元に残しておく)税金のことです。後日、銀行は各社から源泉徴収した税金をまとめて国に納付します。

当社側からすると、決算後に税金として納付すべき金額の一部を、銀行が先に徴収して国に納めてくれた…という形になるので、帳簿上では税金の先払い(仮払い)として処理します。

具体的な計算手順は、先ほど計算した受取利息の金額に税率 20%を掛けて「源泉所得税」の金額を計算し、受取利息の金額から源泉所得税の金額を差し引いて「受取利息手取額」を計算し、最後に「満期額に受取利息手取額を加えた金額」を計算します。

- ・受取利息の金額 = $10,000,000 \text{ 円} \times 0.5\% \times 6 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = 25,000 \text{ 円}$
- ・仮払法人税等に計上する源泉所得税 = $25,000 \text{ 円} \times 20\% = 5,000 \text{ 円}$
- ・所得税控除後の受取利息手取額 = $25,000 \text{ 円} - 5,000 \text{ 円} = 20,000 \text{ 円}$
- ・満期額に受取利息手取額を加えた金額 = $10,000,000 \text{ 円} + 20,000 \text{ 円} = 10,020,000 \text{ 円}$

上記の計算で、仮払法人税等に計上する源泉所得税が 5,000 円、満期額に受取利息手取額を加えた金額（=新たな定期預金の金額）が 10,020,000 円と分かるので、それぞれ借方に計上します。

★解答仕訳

(借) 定期預金 10,020,000 / (貸) 定期預金 10,000,000
(借) 仮払法人税等 5,000 / (貸) 受取利息 25,000

源泉所得税に関する問題は第 141 回の問 1 でも出題されていますが、どちらも難度の高い問題です。

4. 固定資産の修繕に関する問題です。

修繕に関する問題は、支出した費用を「収益的支出」と「資本的支出」に分けて処理しましょう。

- 収益的支出：定期修繕など固定資産の諸機能を維持するための支出 → 修繕費・修繕引当金で処理
- 資本的支出：耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出 → 固定資産の増加として処理

本問は、問題文の「保有する機械装置について定期修繕を実施し、修繕費用 ¥ 9,000,000 が当座預金から支払われた」から、この 9,000,000 円が収益的支出であることが分かります。

また、問題文の「この修繕については、前期までに引当金 ¥ 8,000,000 が設定されていた」から 8,000,000 円の修繕引当金が設定されていることが分かります。

よって、9,000,000 円のうち 8,000,000 円については修繕引当金を取り崩して処理し、残額の 1,000,000 円については修繕費で費用処理します。

★収益的支出に関する仕訳

(借) 修繕引当金 8,000,000 / (貸) 当座預金 9,000,000
(借) 修繕費 1,000,000

なお、本問は資本的支出は発生していないので、上の収益的支出の仕訳がそのまま解答仕訳になります。

固定資産の修繕に関する問題は、第 100 回の問 1 や第 102 回の問 4、第 110 回の問 1、第 111 回の問 5、第 115 回の問 3、第 119 回の問 2、第 123 回の問 5、第 124 回の問 1、第 132 回の問 1、第 137 回の問 3、第 139 回の問 1、第 141 回の問 2、第 147 回の問 1、第 149 回の問 3 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 固定資産の取得&租税公課に関する問題です。

不動産取得税は指示に従って処理するだけなので簡単ですが、固定資産税はカッコ書きに惑わされてしまった受験生が多かったようです。

それではまず、不動産取得税から考えますが、問題文に「**土地の取得原価に含める不動産取得税**」という明確な指示があるので、土地の増加として処理します。

★解答①・不動産取得税の処理の仕訳

(借) 土地 500,000 / (貸) 未払金 500,000

次に、固定資産税を考えましょう。

問題文のカッコ書きの「**4期に分けて分納**」から、全4期分ではなく1期分の275,000円だけを計上した方がいらっしやるかもしれませんが、このカッコ書きの内容はあくまでも未払金の支払方法を示したものに過ぎません。

固定資産税は納税通知書を受け取った時点で**税金の金額が確定する**ので、1期分だけでなく全4期分の金額1,100,000円を租税公課で処理します。

★解答②・固定資産税の処理の仕訳

(借) 租税公課 1,100,000 / (貸) 未払金 1,100,000

最後に、①②の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

■模範解答について

資格の大原のみ固定資産税を1期分のみ計上する仕訳を別解としています(TAC、LEC、NS、大栄、メイプル、弥生カレッジは別解なし)。

未払計上するタイミングの問題なので、別解の仕訳も間違いではないと思いますが…個人的には、あえて1期分のみを計上する意味はないと思います(2期以降の分はいつ計上するの?支払時?じゃあなんで1期分だけ未払計上するの?1期分も支払時でいいじゃん…となるので)。

日商簿記検定は模範解答が公表されないので、大原の別解でも正解になるのかどうかは分かりませんが、参考までに大原の別解をご紹介します。

☆別解・大原の別解(固定資産税を1期分のみ計上する仕訳)

(借) 土地 500,000 / (貸) 未払金 775,000

(借) 租税公課 275,000

固定資産の取得に関する問題は、第101回の間3や第118回の間5、第120回の間5、第125回の間4、第128回の間1、第131回の間3、第139回の間1、第141回の間2、第145回の間1、第147回の間1、第150回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。